

# 2022年度私大医学部入試 解答速報(解説付き)

## 東北医科薬科大学(医)【英語】

### 解答速報 実施大学

- ◆杏林(医)
- ◆東京医科
- ◇埼玉医科(後期)
- ◆東北医科薬科
- ◆埼玉医科(前期)
- ◇日本医科(後期)
- ◆関西医科(前期)
- ◆東京慈恵会医科
- ◇昭和医科(II期)
- ◆近畿(医/前期)
- ◆大阪医科薬科(前期)
- ◆昭和(医/ I 期)

### 私大医学部後期入試対策講座受付中！

#### 後期入試対策講座 実施大学

講座詳細は下記まで  
お問い合わせください

受講料  
無料

#### 【東京お茶の水校】

・金沢医科 ・久留米(医) ・埼玉医科 ・昭和(医) ・聖マリアンナ医科 ・日本医科

#### 【大阪梅田校】

・大阪医科薬科 ・金沢医科 ・関西医科 ・近畿(医) ・久留米(医) ・藤田医科



## 医学部・医系 専門予備校

# 進学塾ビッグバン

東京お茶の水校

大阪梅田校



イ シ ャ ニ ナ ロウ  
0120-148-276

[www.bigbang-web.jp](http://www.bigbang-web.jp)

進学塾ビッグバン

検索

【講評】

[I] はプラセボ効果に関する読解問題であり、テーマも医学部受験生にとっては取り組みやすい内容であった。本文も設問も基礎から標準レベルで高得点を狙いたい問題であった。

[II] は西欧とアジアの違いに関する少し長い長文読解問題であり、数問だけ選択肢で迷うものが見受けられたがほとんどは標準的な問題である。[III] は正誤問題になったが、難易度自体は例年並みであり、しっかりと得点したい。[IV] は日本文がついた整序英作文問題で標準レベルなので落ち着いて高得点を狙いたい問題である。

【解答解説】

[ I ]

問1 ③

chronic は「慢性的な」で近い意味は③の persistent 「しつこい、継続的な」である。

問2 (1) ③

distinctive は「独特な」で近い意味は④の typical 「典型的な、特有の」である。

(2) ②

susceptible to ~ は「~の影響を受けやすい」で近い意味は①の easily influenced by ~ である。

(3) ①

instinct は「本能」で近い意味は①の intuition 「直観」である。

問3 (1) ④

Being able to identify people who respond to a placebo が「誰がプラセボに反応するのかを識別できれば」にあたる。医学部受験生としては side effects 「副作用」、addictive 「中毒的な」は知っておきたい。

(2) ③

Of the 43 patients in the placebo group が「43人のプラセボ群患者のうち」にあたり、平均して20%低下したのは the intensity of their pain 「痛みの強さ」である。

問4 (1) ③

sugar pills のようなプラセボがもたらす効果は患者の症状を「軽くする」ものである。なので答えは③lessening になる。

(2) ⑤

痛みが平均して20%低下したという内容を受ける This の後に続くものを選ぶには「痛みの軽減」という意味になるはずなので答えは⑤relief 「軽減」になる。

問5 (1) ⑤ (2) ④

並び換えると～is needed to see how the predictive features～になり、下線部(7)を含む文の訳は「(プラセボがどの程度効くかを) 予測できる特徴が、どの程度ほかの集団や異なる痛みの症状に有効か確かめるためにさらなる研究が必要である」となる。

問6 ③

本文は一貫して脳と性格のプラセボ効果の関連性について述べているものなので答えは③「脳の特徴が、プラセボ薬が慢性的な痛みを治療できるかどうかを明らかにするかもしれない」になる。

[ II ]

問1 ②

subjects は「被験者」で近い意味になるのは examinees 「受験者、被験者」になる。

問2 ④

本文には日本人は collectivist/holistic mindset であり、アメリカ人が individualist/analytic mindset であると書いてあるので間違っているのは④「日本人は分析的思考をする」である。

問3 (1) ③

英語の特性上必ず主語が必要であること具体例として次に It is raining が出てくるので答えは③For example 「たとえば」になる。

(2) ②

この段落では英語と中国語の特徴を比べている内容で、英語の特徴を述べられた後で In Chinese と対比関係になる中国語の特徴へと話題が転換されているので、対比関係を表す語句である②by contrast 「対照的に」が答えになる。

(3) ③

( C )の直前の文では「中国語では多くの単語が動詞にも名詞にもなる」という内容が書かれ、空所に続く文で「中国語は英語よりあいまいである」と述べられている。そこで前文の内容を「一般化」する③in general 「一般的に、全体として」を入れると文脈に合う。

問4 ③

本文には西欧世界は stable things「安定したもの」で構成され、アジア社会は changing processes で構成されているとあり、アジアの言語に反映される世界観は changing であり西欧世界とは逆の「安定していないもの」であるので③「世界は不安定だと考えられている」が答えになる。

問5 ④

prominence は「顕著さ、重要性」なので近い意味になるのは importance になる。

問6 ③

この The lightning flashed という文は前に出ている It is raining 同様、英語には文法上必ず主語が必要で、ときには主語を invent 「でっちあげる、創り出す」あるという内容の具体例なので、③「英語の文法では、ときに主語が創り出される」が答えになる。make up は invent と同意表現である。

問7 ①

本文には中国語は英語よりも曖昧で the meanings of the words tends to vary with context 「単語の意味が状況に応じて変化する傾向がある」とあるので答えは①になる。

問8 ①

本文にはアジア人がより敏感に反応するのは the broader social context 「より広い社会的状況」であると書いてあるので、①「彼らは社会的枠組みを深刻にとらえるので、悲しんでいる顔により注目する」が答えになる。

問9 ①

挿入する文は「異なる文化出身の人は、初期設定されている（「生まれながらの」の意味）論法があり、これが物事の分類の仕方に影響を及ぼすと示す証拠がある」という意味。（ ① ）のあとに例示を表す for example があり、ここでアメリカ人と中国人の「サル、パンダ、バナナ」の分類の仕方の違いが述べられている。よって①が答えとなる。

問10 ③

本文にはアメリカ人は categories の観点から考え、中国人は relations 「関連性、つながり」の観点から考えるとあるので答えは③「彼らは関連性の観点で状況を認識する」になる。

問11 ②

本文に Asian culture tends to have a more shades-and-grey, both-and, truth-on-both-sides style which makes them more willing to accept apparent contradictions とあるので答えは②「彼らは両サイドの真実スタイルを持つ」になる。

問12 ④

本文には中国人は mutual misunderstanding の観点から説明する傾向があると書いてあるので答えは④「両サイドの理解不足として」になる。

問13 ②

このことわざは contradictory ones に対する具体例になるので内容が「矛盾した」、相反する内容になっていなければならないので答えは②「謙虚さをひけらかしすぎると結局は無礼になる」になる。

問14 ③

cover を含む文は「アジア的、西洋的といったレッテルが多く異なる文化的伝統を…したとしても」という意味。cover を「扱う」の意味で当てはめると文脈に合う。したがって、③deal with が答えとなる。

問15 ②

Exceptionless laws は「例外なき法則」という「ゆるぎない」ものを表すため答えは inflexible principles 「確固とした原則」になる。

問16 ③

本文には西欧とアジアのスタイルを文脈においてうまく組み合わせて使うことが useful tools であると書いてあるので答えは③「西洋とアジアの思考法は、世界を正しく理解するために融合させるべきだ」になる。

[ III ]

問1 ③

後ろが不完全文で must be に対する主語になるので that ではなく what になる。

問2 ②

内容から考えると、このままだと因果関係が逆になるので because を why に変える。

問3 ②

先行詞である another thick concept が消えている構造になるので say に about をつける。

問4 ④

目的語として the earth もあり seven planets と能動関係にあることから orbited を orbiting に変える。

問5 ②

直前に now know とあり内容も不変の真理なので were を are に変える。

問6 ①

名詞節として間接疑問文にするので疑問詞+S+V~の形になるので we can になる。

問7 ④

発見するのは未来のことであるので turned を will turn に変える。

問8 ④

名詞を比較するものなので certainly を certainty に変える。

問9 ②

主語である something は単数扱いなので are を is に変える。

問10 ③

本文には an がついているので criteria を単数形である criterion に変える。

[ IV ]

問1 ③—①

②—⑧—③—④—⑤—⑩—⑥—①—⑦—⑨

think much of ~ 「～を尊重する、尊敬する」 all the way through 「最後までずっと」

問2 ⑥—②

③—⑦—⑥—⑤—⑧—④—②—①

of+抽象名詞=形容詞 of no use = useless nothing but ~ 「～に過ぎない」

問3 ⑧—⑨

⑦—⑥—⑧—④—③—①—⑤—⑨—②

stand on one's feet 「自立する」 partly because s + v ~ 「一部は～だからである。」

問4 ⑧—⑤

③—⑦—⑧—⑥—⑨—④—①—⑤—②

to make ~ 不定詞の副詞的用法で目的を表す。

make up for ~ 「～を補う」 the decline in ~ 「～の減少」

問5 ⑨—⑥

①—⑧—⑨—⑦—③—④—⑥—⑤—②

not ~ ever 「決して～ない」 take the place of ~ 「～にとって代わる」